

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	大分県立看護科学大学	整理番号	1-1-087
応募テーマ	主として総合的取組に関するテーマ		
取組名称	総合的な判断力を持つ自律した看護職の育成 —ヒト、人、人間の理解を目指して—		
申請単位	大学全体		
申請担当者	草間 朋子		
<p>(取組の概要)</p> <p>看護学を学ぶ単科大学の特徴を活かして、一人ひとりの顔の見える、すなわち、教員から学生の、また、学生から教員の顔の見える双方向の交流を通して、学生の個性を尊重し、それを最大限に延ばすための教育を行っている。</p> <p>看護の対象である人について、生物学的なヒトから社会で生活する人間としての人までを徹底的に理解できる能力を高め、総合的に判断し社会のニーズに沿った看護を自律的に提供できる人材の育成を目標にしている。このためには、一般教養教育、看護学の基盤教育、看護学の専門教育の融合を図るとともに、4年次に実施する看護学の総合実習、総合人間学、総合看護学、卒業研究などの科目を通して、看護教育において自律性が求められていることを学生自身が強く認識できるようにしている。また、ソウル大学との学生交流、開発途上国の支援事業などを実施し、学生の国際的な視野を深めるとともに、社会性を身に付け、看護職に求められているもの、課題等を自ら認識できる機会としている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、大分県立看護科学大学の教育目的・教育方針である</p> <p>① ヒト・人・人間を総合的に理解できる能力の育成 ②自ら考え判断できる自律的な能力の育成 ③心豊かな感性、社会的適応性の育成 ④国際的視野の育成 を実現するため、同大学の教授会の審議を経て、同大学が開学した平成10年から実施されています。開学して僅かに5年の年月を経過するのみですが、これらの教育目標を達成するために、カリキュラムの改善や、教育の進め方、看護学実習の進め方、国際交流のあり方などに責任ある組織的な対応をしており、それぞれのフィールドで相応な成果を上げています。</p> <p>教職員の一人ひとりが、大学運営、学生の人格形成に深くかかわっていることへの自覚を促し、一方カリキュラムの設定を座学と実習を有機的に結合させ、科学的な基礎的能力と人間性を踏まえた自律性ある看護職者を育成しようとしていく大学の姿勢、あわせて国際的な学生交流を配慮し、すでにその方面の実績も上げています。この取組は、将来大きな成果が期待され、他の大学の参考になる事例です。</p>			